



特

集

高知大学

海洋コア

総合研究センター

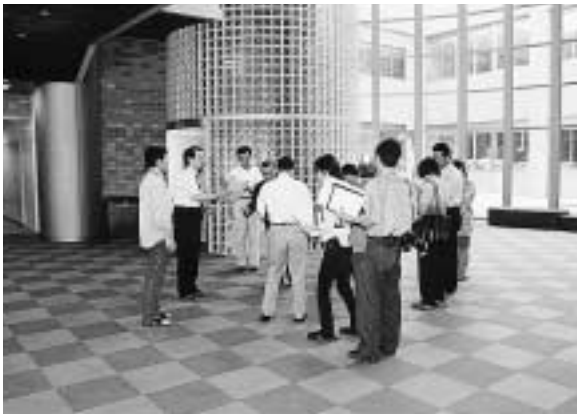
「地球」...いまだ解明されていない謎がたくさんあります。

地球の生き立ちや環境がどのように変動してきたのか？地球の内部はどうなっているのか？

今、私たちの住む南国市で、全国・世界各国からの研究者によってその謎が解き明かされようとしています。

高知大学物部キャンパスに、5月24日「海洋コア総合研究センター」が完成。広報委員会では、さっそく同センターを訪ね、施設概要や研究課題などを取材してきました。

世界唯一の先端施設が
南国市に！



コアケースを イメージした建物

高知大学物部キャンパスの木立を抜けると、近代的な建物「海洋コア総合研究センター」が目の前に現れます。基礎から応用までの研究が一貫してできるという、世界唯一の先端施設です。玄関を入ると深海を思わせるような青色のタイルが壁に張り巡らされ、コアケースの形状をイメージしたというエントランスホールが印象的です。

海洋コアとは？

「海洋コアは、まさに過去の地球環境の移り変わりを正確に記録したテープレコーダーです」と、施設を案内してくれた同センター長の安田尚登教授。では一体、この耳慣れない「海洋コア」とはどのようなものなのでしょうか。実は水深2千〜4千mの海底にパイプを突き刺し、円筒状（直径7 から12、長さ約15）にくり抜いた試料のサンプルのことなのです。実物のコアを見てみると、



円筒を縦に割り、切り口表面は堆積物がしま模様になっています。このしま模様は、1で数千年から1万年の年月がかかるといえます。堆積物の微妙な色の違いは、地球環境の変動を表しているのとこのとです。

試料の採取と 掘削船

採取場所は海洋から採取します。海洋から採取する理由は、風雨にさらされて侵食される陸上と異なり、深海底では、微生物の死がいや海流に運ばれた砂などが年を追って整然と降り積もっているからです。いわゆるその時代のお

らゆるものが層になって蓄積されているのです。

これを採取する際に登場するのが掘削船。洋上船から海底約2千 まで掘削して採取します。

現在、深海掘削船はアメリカのジョイデス・レゾリューション号のみですが、これを遥かに超える掘削船が2005年に完成予定、日本の科学技術の粋を集めた「ちきゅう」です。この掘削船はなんと海底7千mまで掘削可能というので驚きです。



掘削研究船
「ちきゅう」



提供：海洋科学技術センター